

標 題 : Metabolic Syndrome and Colorectal Cancer : The Protective Role of
Mediterranean diet —— A Case-Control Study
メタボリックシンドロームと結直腸癌 :
地中海食事の予防的な役割——症例-対照研究

著 者 : N. Kontou, et al. (ギリシャ ハロコピオ大学 栄養・糖尿病学科)

掲 載 誌 : Angiology 63(5): 390-396 (2012)

要 旨 :

メタボリックシンドロームの存在下で、結直腸癌に対する地中海食事の影響を最初に発症した癌の患者 250 人(63±12 歳、男性 59%)および年齢-性別を合わせた対照 250 人で評価した。

地中海食事の順守を修正地中海食事スコア(理論的な範囲 0-75)で評価したが、メタボリックシンドロームの評価は「第3回 成人治療パネル」([ATP III]国立コレステロール教育計画)の基準に基づいた。

メタボリックシンドロームの存在(1.66、95%信頼区間[CI]1.02-2.69)、年齢(4.25、95%CI 2.33-7.77)、喫煙(1.85、95%CI 1.27-2.70)、および結直腸癌の家族歴(3.37、95%CI 1.69-6.75)は悪影響を与えたが一方で、地中海食事の順守(0.88、95%CI 0.84-0.92)および BMI(0.93、95%CI 0.89-0.98)は結直腸癌に関して予防的な役割をした。

メタボリックシンドロームの参加者(0.84、95%CI 0.76-0.93)およびメタボリックシンドロームでない参加者(0.89、95%CI 0.85-0.94)の両方で、地中海食事は結直腸癌に対して同様な影響をした。

キーワード : 結直腸癌、地中海食事、メタボリックシンドローム、オリーブ油、アルコール

注 : 掲載誌の"Angiology"は「脈管学」です
